

二宮町子ども・子育て支援事業計画における、教育・保育提供区域の考え方

平成 29 年 11 月 14 日
二宮町健康福祉部子ども育成課

1 現状及び考え方の目的

核家族化、共働き世帯の増加などにより、保育希望数は年々増加している。また、平成 27 年度より待機児童が発生しており、保育所では定員を超えて受け入れをしているが、現状以上の受入れは限界となっている（平成 29 年 8 月 20 日現在、定員合計 350 名に対し、379 名が入所）。

また、保育希望数は今後も増加する見込みであり、待機（保留含む）児童の解消のためには、保育所の新設も視野に入れていく必要がある。

現在、二宮町子ども・子育て支援事業計画においては、教育・保育提供区域として町内全域を 1 区域としているが、保育所新設も視野に入れて待機（保留含む）児童の解消を進めるにあたり、教育・保育提供区域を町全域ではなく、区域に分けて整理する必要があるため、以下によりその考え方を示す。

2 作業（別表 1～3 参照）

区域に分けて整理するため、以下の作業を行う。

- ・町を北部、南西部、南東部の 3 つに分ける。
- ・地理的条件、交通事情より、各区域に最寄の保育所として既存保育所を割り当てる。
- ・平成 32 年 3 月末の各区域の未就学児人口の割合に別表 4 で算出した入所希望者総数をかけ、H32.3 末時点の区域ごと入所希望者数を出し、保育所定員の合計と比較し、各区域の充足度を求める。

作業の結果、北部は入所希望数に対し定員は充足しており、人口は減少傾向にあることから、今後保育ニーズが増加する可能性は低い。

南西部は、入所希望数に対し定員は 82 名不足している。中里及び元町北地域においては、未就学児人口の割合が全人口の未就学児の人口割合より高いことから、今後の保育ニーズは高い状況で継続する可能性が高い。

南東部は、入所希望数に対し定員は 29 名不足している。元町南、下町地域は未就学児人口の割合が全人口の未就学児の人口割合より高いことから、今後の保育ニーズは高い状況で継続する可能性が高い。

以上により、3区域において、最も保育ニーズが高い状態にある区域は、南西部である。

3 新規保育所の規模

保育所を新設する場合、H32年3月において、入所希望者数は437名、既存保育所受入れ限界を380名とすると、待機（保留含む）児童数は57名であることから、同時期における待機（保留含む）児童の解消を実現するためには、60名規模が必要となる。

4 南西部における各地域の未就学児の状況

南西部を構成する6地区は、地理的条件、交通事情から、「中里」、「元町北」、「越地・茶屋・釜野・川匂」（以下、山西地区（位置図参照）という）に分けられる。中里及び元町北地域は、前述のとおり、未就学児人口の割合が高い。山西地区全体としての未就学児の人口割合は、町全体の未就学児の人口割合よりも低い。

5 南西部における保育所新設の効果

南西部において、保育所を新設する場合に最も効果が高い場所を検証する。中里地区は、未就学児人口が高く、既存の保育所が無い。元町北地区は、未就学児人口は高いが、既存保育所がある（梅花保育園）。山西地区は、未就学児人口は低く、既存保育所は無い。ただし、梅花保育園に行くとした場合、山西地区からは釜野トンネル（位置図参照）を通り、中里地区に抜ける道路を使用すると思われる。

よって、保育所が新設される場合、未就学児人口が高く、既存保育所が無い、山西地区からも中里地区内に続く主要道路があることから、中里地区に新設されるのが最も効果的である。

6 東京大学果樹園跡地の有効活用

中里地区内には、他の公園にはない自然環境が残されている東京大学果樹園跡地があり、保育所生活においてその自然環境を利用することにより、児童の心身の発達促進に寄与できるものとする。

そのため、中里地区に保育所新設が計画された場合、同跡地の有効活用を可能な限りふまえて検討する。

7 結論

二宮町子ども・子育て支援事業計画においては、教育・保育提供区域として町

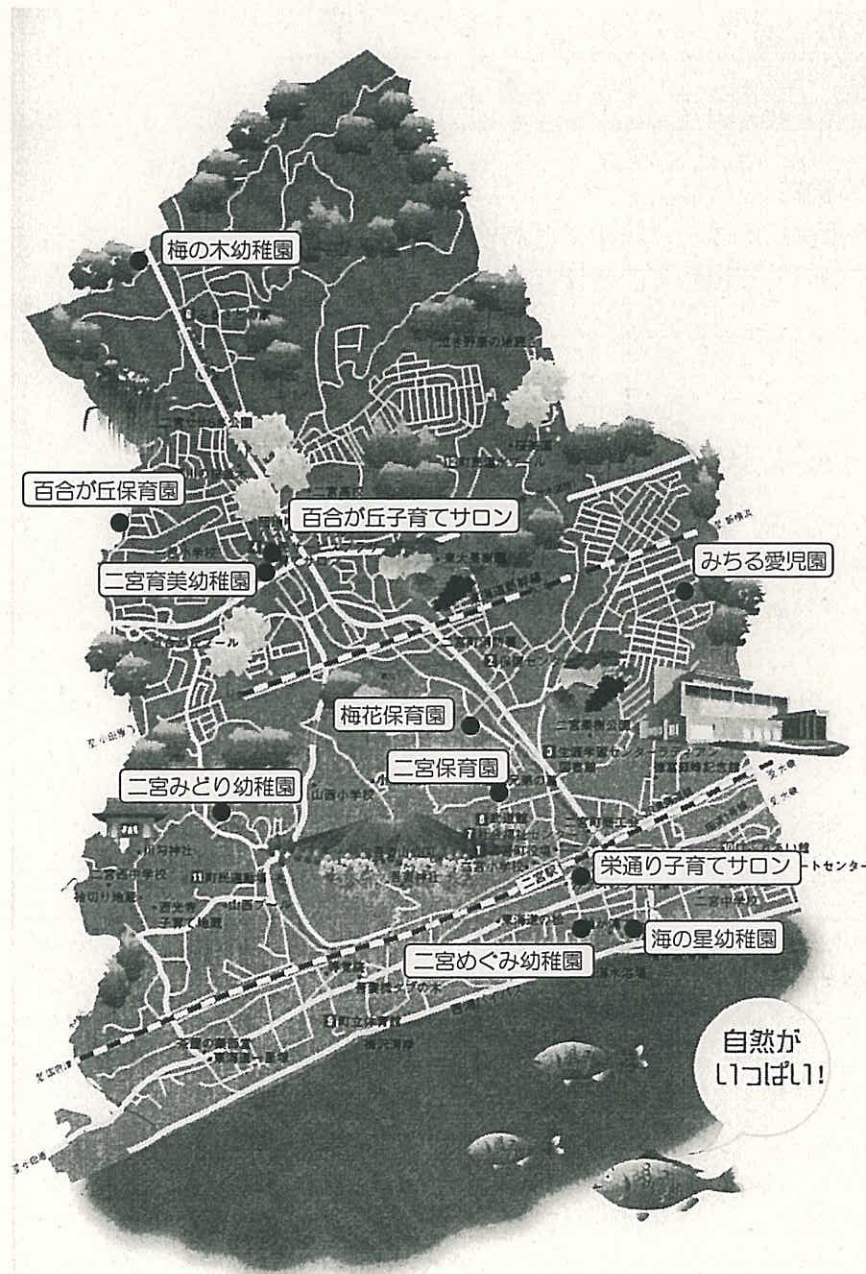
内全域を1区域としているが、その中でも保育所が新設される場合に最も効果的である地区を中里地区とし、受け皿不足解消地区として最優先していくものとする。

1 教育・保育提供区域の設定

子ども・子育て支援法に基づく国の基本指針では、市町村は地理的条件、人口、交通事情その他の社会的条件、現在の教育・保育の利用状況、教育・保育を提供するための施設の整備の状況その他の条件を総合的に勘案して、地域の実情に応じて保護者や子どもが居宅より容易に移動することが可能な区域（以下「教育・保育提供区域」という。）を定める必要があるとしています。

現状として、幼稚園、保育所の通園は行政区、小中学校区にかかわらず、町内全域から児童が通っています。また、幼稚園、保育所の場所も均等に配置されておらず、地域子ども・子育て支援事業は町内全域を対象としています。

そのため、本町では総合的に勘案し、教育・保育提供区域について町内全域を1区域としました。



(別表1)

単位:人

区域	構成地域	保育所	定員合計	5歳以下人口	H32入所希望数	充足度
北部	一色、緑が丘 百合が丘1~3	百合が丘保育園	90	157	66	○
南西部	中里、元町北、 越地、茶屋、釜野、 川匂	梅花保育園	90	412	172	×
南東部	元町南、松根、 富士見が丘1~3、 上・中・下町、梅沢	二宮保育園 みちる愛児園 みちる駅前ナーサリー	170	475	199	△
合計			350	1044	437	

※入所希望率437/1044=41.86%

(別表2)

5歳以下人口: H32.3末推測

単位:人

地区名	一色	緑が丘	百合が丘1	百合が丘2	百合が丘3	中里	元町北	元町南	富士見が丘1	富士見が丘2	富士見が丘3
5歳以下人口	47	33	33	18	26	142	90	87	19	53	13
合計に対する割合	4.5%	3.2%	3.2%	1.7%	2.5%	13.6%	8.6%	8.3%	1.8%	5.1%	1.2%
割振保育所	百合が丘	百合が丘	百合が丘	百合が丘	百合が丘	梅花	梅花	二宮	みちる	みちる	みちる
区割り	北	北	北	北	北	南西	南西	南東	南東	南東	南東
地区名	松根	上町	中町	下町	梅沢	越地	茶屋	釜野	川匂	合計	
5歳以下人口	20	43	12	144	84	21	79	55	25	1,044	
合計に対する割合	1.9%	4.1%	1.1%	13.8%	8.1%	2.0%	7.6%	5.3%	2.4%		
割振保育所	みちる	二宮	二宮	みちる	二宮	梅花	梅花	梅花	梅花		
区割り	南東	南東	南東	南東	南東	南西	南西	南西	南西		

全人口: H29.4.24現在

単位:人

地区名	一色	緑が丘	百合が丘1	百合が丘2	百合が丘3	中里	元町北	元町南	富士見が丘1	富士見が丘2	富士見が丘3
人口	1,083	1,986	1,304	1,214	1,235	3,311	2,059	1,774	1,147	1,301	737
合計に対する割合	3.8%	6.9%	4.5%	4.2%	4.3%	11.5%	7.2%	6.2%	4.0%	4.5%	2.6%
	松根	上町	中町	下町	梅沢	越地	茶屋	釜野	川匂	合計	
	494	1,023	383	2,794	1,901	820	1,728	1,874	591	28,759	
	1.7%	3.6%	1.3%	9.7%	6.6%	2.9%	6.0%	6.5%	2.1%		

(別表3)

既存保育所定員

単位:人

保育所名	二宮	梅花	みちる	ナーサリー	百合が丘
定員	90	90	60	20	90

(別表4)

保育所入所児童数(各年3月末現在)

単位:人

	H25.3末	H26.3末	H27.3末	H28.3末	H29.3末	H30.3末	H31.3末	H32.3末	
保育所入所数	334	357	360	364	368	380	380	380	※既存保育所は380人で飽和状態
入所希望者総数	350	382	385	403	410	419	428	437	※H26末~H29末の伸び平均値

=(410-382)/3=9.3333→9

山西地区及び釜野トンネル位置図

